

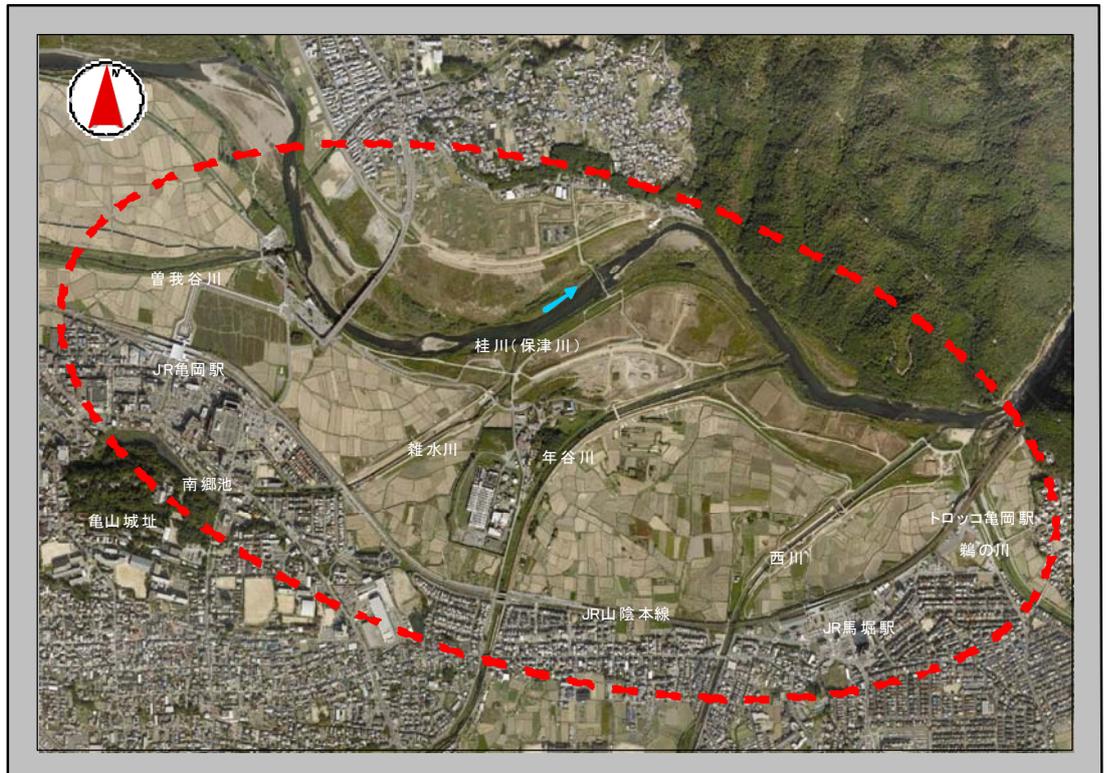
第4章 かわまちづくりの基本方針

4.1 対象区域

保津川かわまちづくり計画は、桂川河川改修事業の保津工区と流入支川の曾我谷川、雑水川、年谷川、西川、鶺の川、並びに、その周辺地域一帯を対象とする。

- 計画対象区域
- ・ 桂川（保津川） 約29k～約31k
 - ・ 流入支川（曾我谷川、雑水川、年谷川、西川、鶺の川）
 - ・ 保津川、流入支川の周辺地域一帯

■ 対象区域図



■ 広域図



4.2 整備の目標

1) 保津川かわまちづくりの方向性

保津川の特性と亀岡市の特性、並びに、かわまちづくりの対象区域の特性は、以下のように整理できる。「保津川かわまちづくり」にあたっては、こうした「かわ」と「まち」が持つ個性や背景などの特性をしっかりと捉え、それらを活かし、さらに、「かわ」と「まち」の持つ魅力を高めつつ、有効に活かして行くことが求められる。特に、対象区域は亀岡市の2大観光資源を結ぶ動線上に位置するとともに、貴重種を含む多くの生物の生息・生育空間となっており、こうした機能を保全・向上させていくことが求められている。

『かわ』と『まち』の特性

『かわ』の特性

- 古くから今日まで地域の暮らしと発展を支え続けてきた
(農業利水、筏流し、保津川開削、舟運)
- 度重なる水害との戦いの歴史の上に今日がある
(内膳堤防、日吉ダム、河川改修)
- 良好な水質とアユモドキに代表される豊かな自然環境を有する
(多種多様な動植物)
- まちなかの貴重なオープンスペースとして、様々な河川利用が行われている
(保津川下り、運動公園、花火大会、地域のイベント、カヌー等々)

『まち』の特性

- 京阪神に近く、快適で暮らしやすき住宅都市の魅力
- 保津川沿川は広大な農地が広がる田園都市の魅力
- 城下町としての風情を残し、多くの歴史的資源を有する歴史文化都市の魅力
- 新しいまちづくり等の魅力
(駅北地区区画整理事業、水端農園プラン、JR山陰本線複線化)

『対象区域』の特性

- 保津川右岸は保津川下りとトロッコ列車の2大観光資源を結ぶ観光軸
- 右岸の中心市街地地域と左岸の田園的土地利用地域の中間に位置
- 旧城下町、中心市街地、田園集落の3つの顔に接する。

2) 整備の目標

以上までに整理・検討した川の持つ魅力や、まちの持つ特性を踏まえ、「保津川かわまちづくり」の目指すべき目標として次の3点を設定する。

目標1：『かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり』

桂川は「保津川」という呼び名で親しまれる一方で、これまで幾たびとなく氾濫を繰り返すなど、沿川の人々の暮らしと深く関わり続けてきたところであるが、治水対策やまちづくりが進展してきた今、改めてかわとまちのより良い関わりを結んでいくための「かわまちづくり」をすすめる。

目標2：『かわの魅力を活かしてまちが“にぎわう”かわまちづくり』

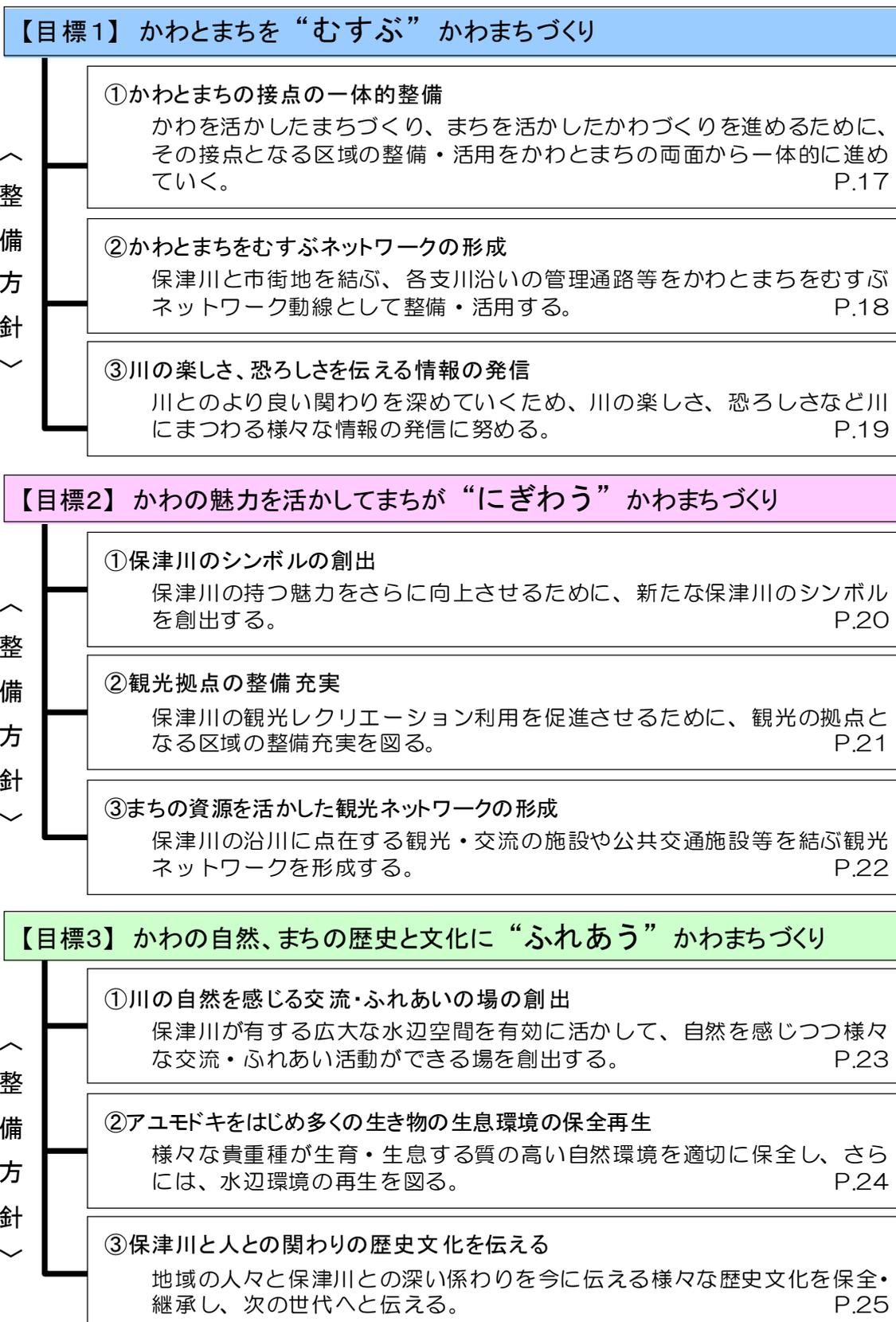
保津川の流れる亀岡地域は京阪神地域からのアクセスに優れるとともに水と緑の豊かな自然や、湯ノ花温泉、トロッコ列車、保津川下りをはじめとする多くの観光資源があり、訪れる人々も年間220万人にのぼっている。これらの資源と連携しつつ、川を活かしたさらなるまちの魅力の創出を図り、にぎわいのある「かわまちづくり」を進める。

目標3：『かわの自然、まちの歴史と文化に“ふれあう”かわまちづくり』

保津川は、古くから沿川の田畑を潤し、保津峡開削によって多くの物資を丹波から京都に運ぶ重要な役割を担ってきた。今日では、沿川の広大な農地への用水の供給とともに、都市の中の貴重な水と緑の自然空間として、また、多くの生き物の生息環境として重要な役割を果たしている。このような保津川の恵まれた自然や、沿川の優れた歴史文化にふれあうことのできる「かわまちづくり」を進める。

4.3 整備の方針

「保津川かわまちづくり」の目指すべき目標を実現するための具体的な整備の方針を3つの目標を柱にして次の通り設定した。



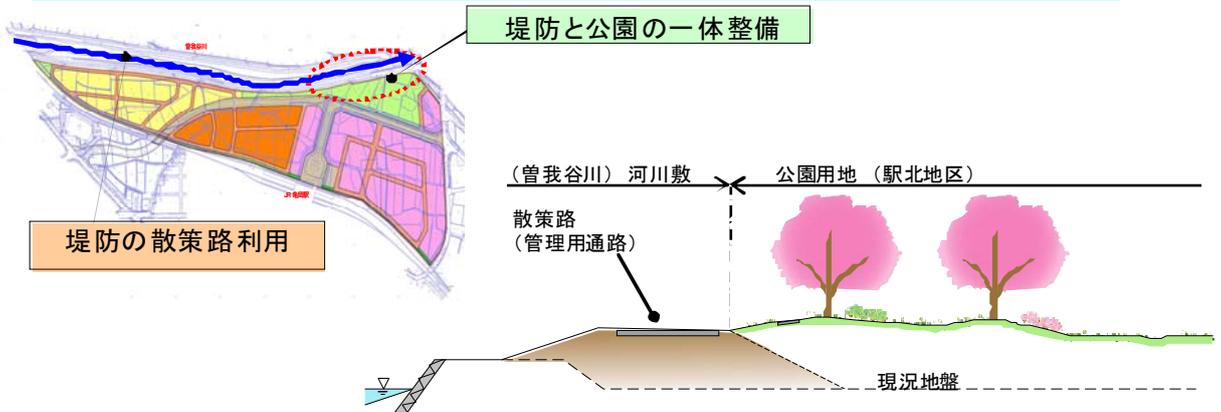
4.4 具体的な整備内容

「保津川かわまちづくり」の目標・整備方針に基づき、考えられる具体的な整備内容について以下に示す。

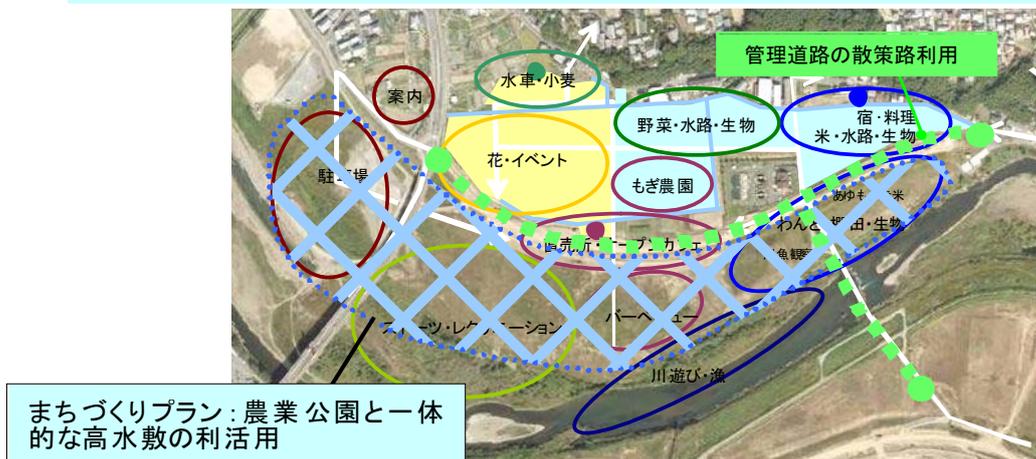
目標1	かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり
整備方針	①かわとまちの接点の一体的整備 かわを活かしたまちづくり、まちを活かしたかわづくりを進めるために、その接点となる区域の整備・活用をかわとまちの両面から一体的に進めていく。
考えられる具体的な整備内容	◆駅北区画整理事業との連携 公園に隣接して水辺を感じる散策路を配置し、かわとまちの連続性を確保するとともに、土地の有効活用を図る。また、駅北地区はまちと保津川を“むすぶ”重要な地域であり、亀岡の歴史・文化・自然の魅力を感じられるような、亀岡の新しい玄関にふさわしい景観形成・土地利用誘導を目指す。 ○曾我谷川の一体的整備 ○亀岡の新しい玄関にふさわしい景観の形成・土地利用誘導
	◆保津町まちづくりプランとの連携 保津町で進められている水端農園プランと連携し、農業公園と水辺公園を連続的に整備することにより、地域で一体的に有効活用する。 ○水辺公園の整備（高水敷の利活用）

〈整備イメージ〉

駅北地区区画整理事業と曾我谷川の一体的整備のイメージ



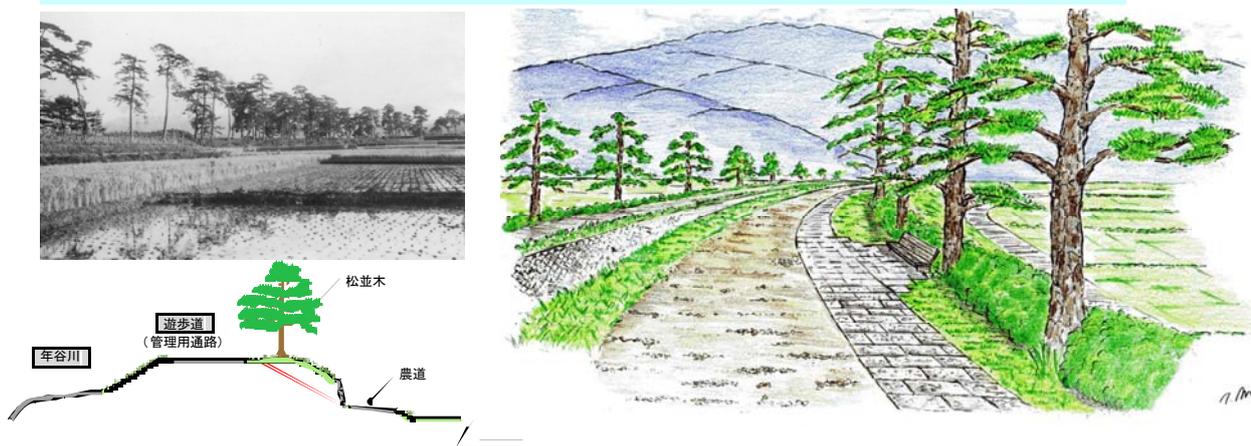
保津町まちづくりプランと連携した高水敷の利活用のイメージ



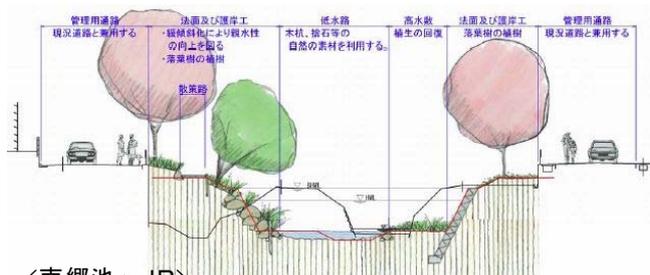
目標1	かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり
整備方針	②かわとまちをむすぶネットワークの形成 保津川と市街地を結ぶ、各支川沿いの管理通路等をかわとまちをむすぶネットワーク動線として整備・活用する。
考えられる具体的な整備内容	<p>◆支川を活用した散策路の整備</p> <p>市街地と保津川を結ぶ雑水川、年谷川、西川、鶉の川の各支川沿い管理用道路等を、それぞれの支川の特성에応じた環境整備等を施すことで、かわとまちを結ぶ、快適な歩行空間として整備・活用する。年谷川では松並木道を整備し、かつての「野橋立」を復元する。雑水川では改修にあたり、多様な生物の生息環境に配慮した整備を行うとともに、南郷池から保津川を水と緑の散策路でつなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○雑水川の散策路整備 (亀山城址・南郷池⇔文化資料館⇔保津川) ○年谷川の松並木道「野橋立」 ○西川の散策路 (JR馬堀駅⇔保津川) ○鶉の川の散策路 (トロッコ亀岡駅⇔山陰古道)

〈整備イメージ〉

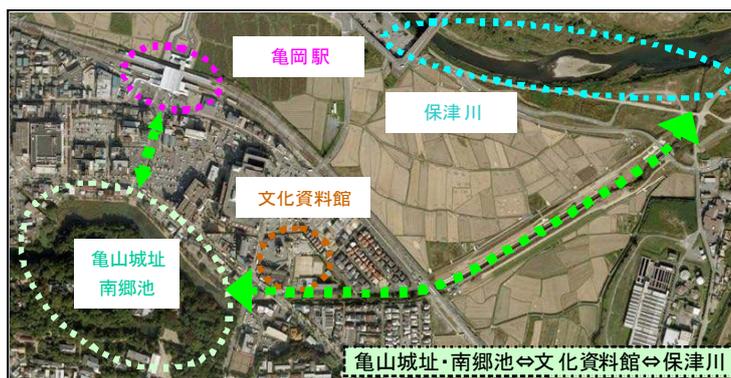
年谷川の松並木道「野橋立」の復元



雑水川の河川整備



〈南郷池～JR〉



目標1	かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり
整備方針	③川の楽しさ、恐ろしさを伝える情報の発信 川とのより良い関わりを深めていくため、川の楽しさ、恐ろしさなど川にまつわる様々な情報の発信に努める。
考えられる具体的な整備内容	◆タイムリーな情報の発信 平常時は河川利用の促進やまちづくりに係わる情報を、緊急時には避難、警戒等の情報を迅速に伝える情報発信を行う。 ○HP、広報誌などによるかわとまちの情報発信 ○河川電光情報板の設置
	◆防災意識の啓発 平常時から常に治水防災に係わる情報を目に付きやすい手法で発信し、防災意識の啓発に努める。 ○まちごとハザードマップの整備（実績及び想定洪水標の設置等） ○防災パネル展の開催等

〈整備イメージ〉

タイムリーな情報の発信

「河川電光表示板」



電光掲示板での情報発信
○緊急時：
洪水情報など
○平常時：
様々な地域情報

「まちなか情報板」



防災意識の啓発

「洪水標識」



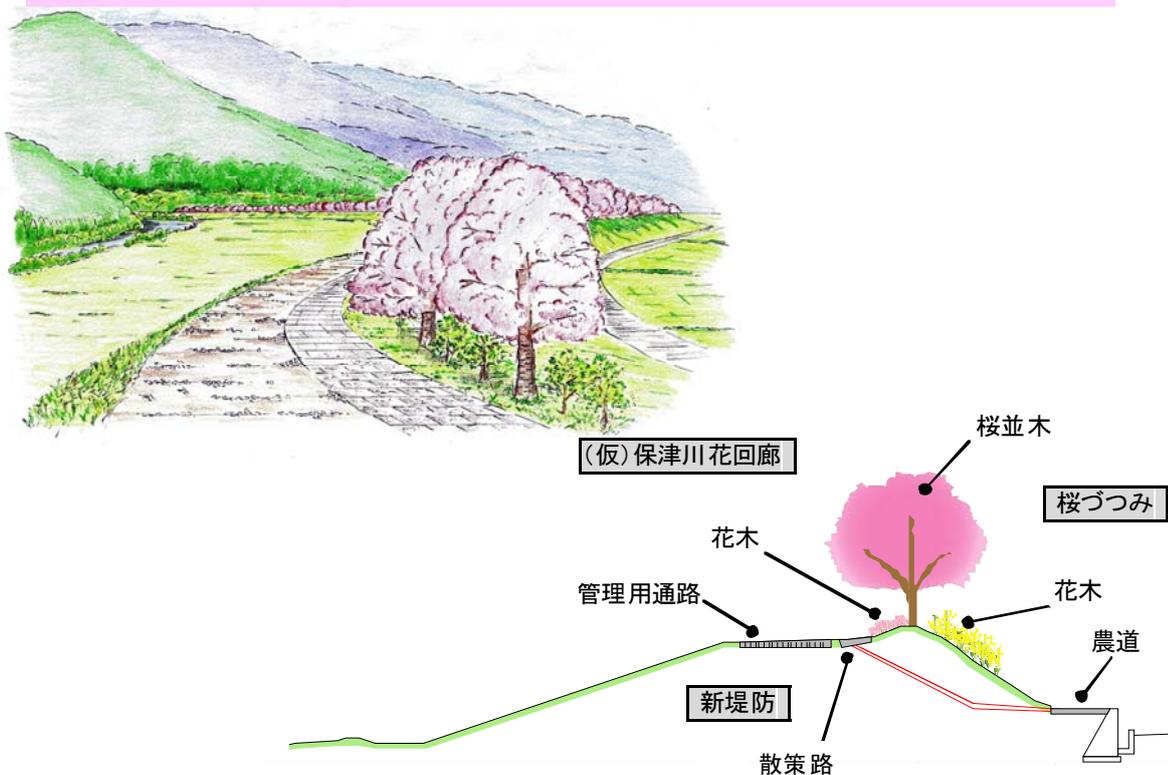
「亀岡駅前の洪水標識」



目標2	かわの魅力を活かしてまちが“にぎわう”かわまちづくり
整備方針	①保津川のシンボルの創出 保津川の持つ魅力をさらに向上させるために、新たな保津川のシンボルを創出する。
考えられる具体的な整備内容	◆「(仮称)保津川 花回廊」の整備 保津川の新たなシンボルとして、桜つつみを中心に四季折々の花木を楽しむ散策路や休憩スポットなどを整備する。 ○築堤、桜・つつじ等花木の植栽、遊歩道、休憩施設、案内板 等
	◆年谷川千本松「野橋立」の復元 かつて年谷川沿いにあった松並木を植栽して「野橋立」を復元し、松並木沿いの遊歩道や休憩施設等を整備する。 ○松並木、遊歩道、休憩施設、案内板 等

〈整備イメージ〉

『(仮)保津川・花回廊』



〈四季の花〉



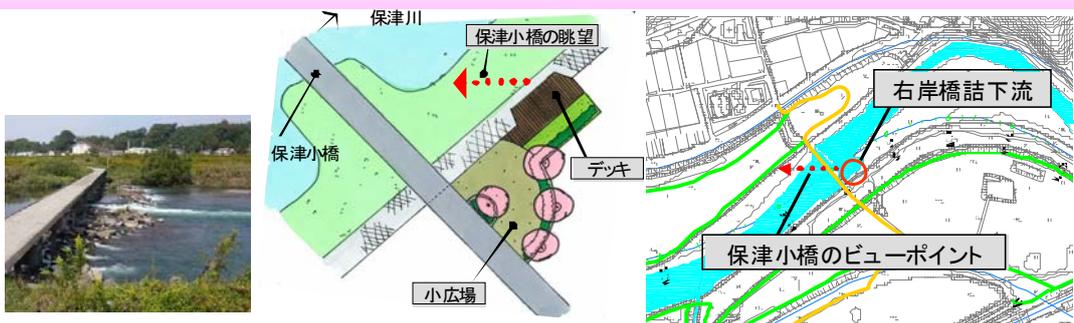
目標2	かわの魅力を活かしてまちが“にぎわう”かわまちづくり
整備方針	②観光拠点の整備充実 保津川の観光レクリエーション利用を促進させるために、観光の拠点となる区域の整備充実を図る。
考えられる具体的な整備内容	◆山本浜の再生 山本浜の跡地は今でもカヌーやラフティングなどの河川利用が行われる場所であり、かつての「山本浜」を再生し、浜のにぎわいを創出する。 ○緩傾斜護岸、河原の再生
	◆保津小橋の周辺整備 保津小橋周辺は、保津川を下る舟やその背後の緑豊かな牛松山などの山々を望む絶好のビューポイントであり、観光利用の拠点として橋詰に広場を整備し、休憩施設や展望スポット等を配置する。 ○橋詰広場、休憩施設、案内板 等
	◆保津川下りの周辺整備 保津川下り乗船場の移転に合わせ、乗船施設や出発広場、観覧施設等を整備し、観光拠点としての充実を図る。 ○乗船場及び周辺護岸整備、出発広場、案内板 等

〈整備イメージ〉

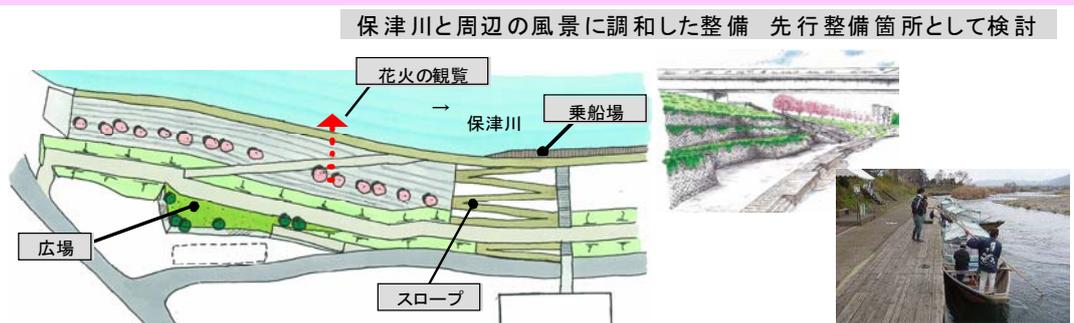
山本浜の再生



保津小橋の周辺整備



保津川下りの周辺整備



目標2	かわの魅力を活かしてまちが“にぎわう”かわまちづくり
整備方針	③まちの資源を活かした観光ネットワークの形成 保津川の沿川に点在する観光・交流の施設や公共交通施設等を結ぶ観光ネットワークを形成する。
考えられる具体的な整備内容	◆観光動線の整備 「(仮称)保津川 花回廊」を中心に観光拠点や左右岸をつなぐ動線を確保し、ルート案内板や休憩施設なども整備する。 ○「(仮称)保津川 花回廊」等 (トロッコ⇔保津小橋⇔保津町⇔保津川下り⇔亀岡駅)
	◆輸送手段の検討 トロッコ亀岡駅や保津川下り乗船場などの主要な観光資源を結ぶルートに馬車やレンタサイクル等の輸送手段を検討する。 ○馬車等の運行

〈整備イメージ〉

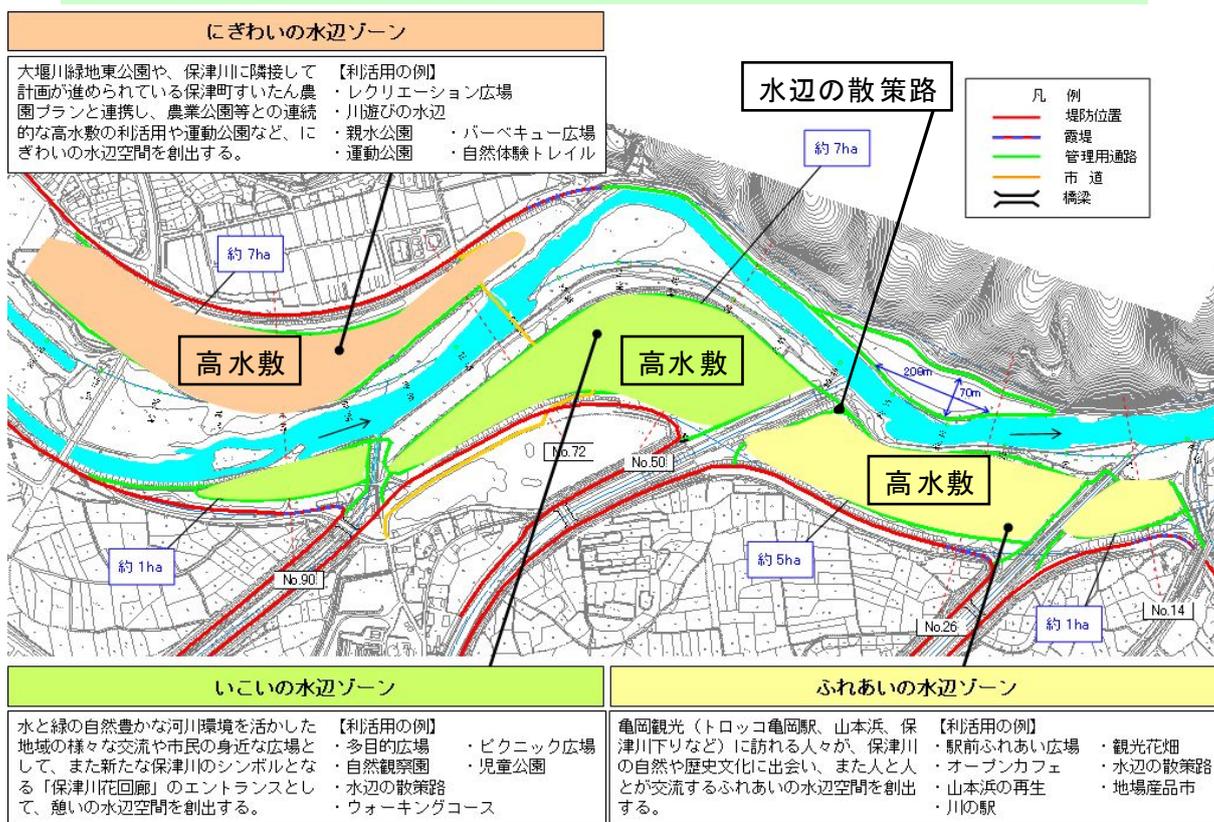
観光動線の整備



目標3	かわの自然、まちの歴史と文化に“ふれあう”かわまちづくり
整備方針	①川の自然を感じる交流・ふれあいの場の創出 保津川が有する広大な水辺空間を有効に活かして、自然を感じつつ様々な交流・ふれあい活動ができる場を創出する。
考えられる具体的な整備内容	<p>◆高水敷の利活用</p> <p>亀岡市が主体となって包括占用制度を活用し、まちづくり計画に沿った利活用や交流・ふれあいの場となる利活用の誘導を図る。なお、高水敷の特性に応じて、「にぎわいの水辺ゾーン」「いこいの水辺ゾーン」「ふれあいの水辺ゾーン」に区分し、それぞれの立地条件や敷地条件に応じて水没することを前提とした利活用を誘導する。</p> <p>○市のまちづくり計画に沿った利活用(包括占用制度の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水没しても支障が少ない利活用：芝生公園、多目的広場、コミュニティ広場、花畑、採草、河川環境保全活動の拠点 等々
	<p>◆水辺の散策路</p> <p>旧堤防等を活用し、河川管理用通路も兼ねた水辺を身近に感じることができる散策路や小径を整備する。</p> <p>○水辺の小径の整備</p>

〈整備イメージ〉

高水敷の利活用・水辺の散策路



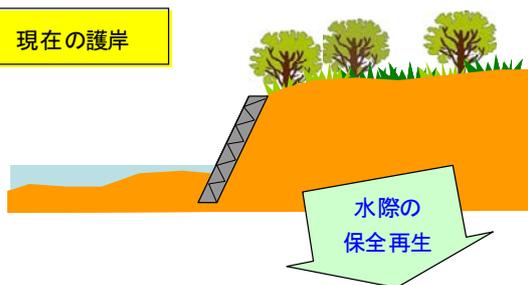
※高水敷は、高さにより、多いところで概ね1～2年に1回程度浸水する(P58参照)

目標3	かわの自然、まちの歴史と文化に“ふれあう”かわまちづくり
整備方針	②アユモドキをはじめ多くの生き物の生息環境の保全再生 様々な貴重種が生育・生息する質の高い自然環境を適切に保全し、さらには、水辺環境の再生を図る。
考えられる具体的な整備内容	◆水辺環境の保全再生 ブロック積護岸や根固ブロック等の自然石等への置き換えや緩傾斜化を図るとともにワンド等の整備を行ない水辺環境の再生を図る。 ○水際の保全再生 ○ワンドの創出
	◆アユモドキ保全協議会との連携 亀岡市の取り組みと連携し、保津川本川や支川において、アユモドキの生息調査や生息環境の保全再生を進める。 ○生息環境の保全、再生 ○生息調査の実施

〈整備イメージ〉

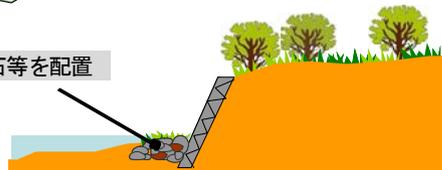
水辺環境の保全再生

現在の護岸

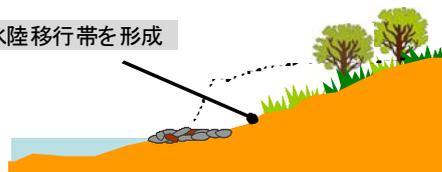


ワンドの再生

水衝部：水際に石等を配置



水衝部以外：緩斜面化して水陸移行帯を形成



アユモドキ保全協議会との連携

【生息環境の改善】

布団カゴ、石積み の設置



【産卵場の改善】

高水敷の攪乱（今年度も継続実施）



【ワンドの創出】桂川本川



目標3	かわの自然、まちの歴史と文化に“ふれあう”かわまちづくり
整備方針	③保津川と人との関わりの歴史文化を伝える 地域の人々と保津川との深い係わりを今に伝える様々な歴史文化を保全・継承し、次の世代へと伝える。
考えられる具体的な整備内容	◆歴史文化の伝承 保津川と地域に伝わる様々な伝承や史跡、名所等に係わる歴史文化を伝えるための情報発信や体験学習等の機会を設け、次の世代へと継承していく。 ○歴史史跡案内マップ（川と歴史を巡る散策コースの設定） ○保津百景との連携 ○歴史文化、自然学習会として「(仮称)保津川探検」の開催
	◆上内膳・下内膳の復元 歴史的な水制工として今も機能する上内膳、下内膳を補修・復元し、先人の知恵を学び将来へ継承していく。 ○上内膳の補修 ○下内膳の復元

〈整備イメージ〉

歴史文化の伝承

「保津百景との連携したマップ作成」

「保津川探検の開催」

保津百景と連携



「保津川探検」の開催



上内膳・下内膳の復元



(文献による長さ:約 50 間: 90m)

